古紙再生を通して持続可能な社会づくりを後押し

リサイクル　環境保全

株式会社 日誠産業

代 表 者 ： 代表取締役社長　平尾　昭一郎
所 在 地 ： 徳島県阿南市津乃峰町新浜33-10
設　　立 ： 昭和45年3月（有限会社日誠産業として設立）
従業員数 ： 50人（役員・パート含む）
事業内容 ： オーダーメイドパルプ製造販売
　　製紙原料選別加工販売

○事業・活動の概要

製紙原料であるパルプは、ティッシュペーパーなどの日用品から、ノートなどの文具、モウルドと呼ばれる卵や果物等の容器、建物の内外壁の材料といった産業用品などに、幅広く用いられている。また、Tシャツや手ぬぐい等の再生繊維（レーヨン）製品に再生されることもある。

日誠産業では、昭和60年から、製紙原料であるパルプの製造工場を開設し、現在、1日当たり約100トンの古紙（牛乳パック約330万枚分）から、約80トンのパルプを製造している。全国で流通する牛乳パックの約20％を処理し、紙と紙以外を分離させる技術を保有する同社では、他の製紙工場では取扱いを避けることが多い、酒パックなどのアルミ付き紙容器や、カップ容器なども回収し、パルプに再生している。

○古紙再生の例

日誠産業グループでは、再生パルプ商品の企画・開発・販売を行っている。

一例として、千羽鶴を原料とした再生パルプ製品がある。広島県広島市の平和記念公園の「原爆の子の像」には年間1,000万羽（約10トン）もの折鶴が捧げられるが、この折鶴を単に焼却処分するのではなく、平和イベントで使用される芸術作品などへ昇華しようという試みが、平成24年から広島市の主導で始まった。同社は、折鶴をパルプに変える工程を担い、現在、この折鶴の再生パルプを用いた手ぬぐいや扇、封筒などの製品への再生が実現している。

再生パルプを用いた製品の例

また、クライアントの会社で出た紙を引き取り、再生し、再びクライアントの会社で使用するといった循環型リサイクルの提案も行っている。スターバックスの例では、牛乳などの使用済み紙パックを、各店舗で使用する紙ナプキンに再生している。

○企業の社会的責任（CSR）とオーダーメイドパルプ

上記の例のような商品を作るためには、原料がどこから来たものなのかを把握する必要がある。大企業では、大量の古紙を、どこの取引先から回収したものであるか区別せずに処理するのが一般的であるが、比較的規模の小さい同社では、取引先から出た古紙を特定して処理することができるため、クライアントが作りたい商品に合わせてパルプを配合するなどオーダーメイドで対応し、生産背景が明らかな（ストーリー性のある）商品作りを可能にしている。

こうしたオーダーメイドパルプ事業だが、きっかけは平成24年に、環境問題を中心に持続可能な社会構築をコンセプトとする展示会「エコプロダクツ」へ出展した際、たくさんの来場者や他の出展企業から大きな反響があったことである。企業の社会的責任（CSR）を重視する動きが進む中で、環境への配慮の観点から再生パルプが注目されたと同社社員は受け止めている。今日では、積極的に再生パルプ商品のアイディアを提案し、時には企業と企業をつなぐ存在として活躍している。

○資源の循環を定着させるために

前述のクライアントであるスターバックスの例では、資源循環の仕組みを、平時の事業活動に取り入れている。このように、「一時的ではなく日常的（平時の活動）に組み込むことができる取組は継続しやすく、このことはエシカル消費にも共通するのではないか」と同社社員は感じている。

資源の循環は、リサイクルをするだけでなく、リサイクル商品を購入・使用してもらうことで完成する。同社では、工場見学や視察の受入れ、小学校や地方公共団体への出前授業を行っている。そうした場では、牛乳パックがトイレットペーパーに変わることを現物を見せながら説明するなどの工夫をして、リサイクルや環境保全に対する理解を促すことで持続可能な社会の形成を目指している。

公表日：平成30年8月17日　　取材：平成30年6月
外部リンク：http://www.nissey.net/